

行事のご案内

- 5月5日 (日) 午後1時 永代経祥月法要
- 5月12日 (日) 午前10時 母の日の集い
- 5月19日 (日) 午前10時 降誕会・初参り
- 5月26日 (日) 午前10時 メモリアルデー
- 5月27日 (月) メモリアルデー墓参り
- 6月9日 (日) 午後1時 永代経祥月法要
- 6月16日 (日) 午前10時 父の日の集い
- 6月23日 (日) 午前10時 日曜学校卒業式

西ボーイスカウト第738団 パンケーキ朝食会

5月12日、午前8時~10時

西別院会館にて

\$12 per 1 plate

*会館入り口でいちごの販売をします。

売り切れ次第ご提供は終了となります。ご注文はオンラインで受け付けます。

Pre-order at:
<https://forms.gle/4hBD1McgXmPE5am16>
Or contact a Scout member



Los Angeles Homba Hongwanji Buddhist Temple
Year 2024

宗祖降誕会

Commemoration of Shinran Shonin's Birthday
Hatsumairi Infant Presentation Service

Special Guest



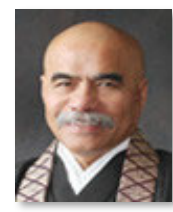
Rev. George Matsubayashi
- Former Rimbun of LAHHBT -

On May 19th, the service starts at 10 am
In-Person & via Zoom !!



発行所
本派本願寺羅府別院
815 E. First Street
Los Angeles, CA
90012
Tel: (213)680-9130
Fax: (213)680-2210
E-mail:
info@NishiHongwanji-la.org
Website:
www.NishiHongwanji-la.org

本派本願寺羅府別院 輪番法話



輪番

ウィリアム プリオネス

許し
人はののしられると、言い返したり、仕返ししたくなるものである。
人はこの反作用に用心しなくてはならない。それは風に向かって睡するようなものである。それは他人を傷つけず、かえって自分を傷つける。・・・(中略)・・・仕返しの心には常に災いがつきまとうものである。

しばらく前のこととなります。家の近くのファミリレストランに信香と朝食を食べにいこうということになりました。店に入って席に案内されるのを待っていました。ウェイトレスは確かに受付けにいました。同僚とのおしゃべりに夢中でいた。プライベートで何やら問題が起こっていた。その説明をしていました。私たちが止む気配もなく、彼女が私たちを気にかける様子もありませんでした。そこで私は「すみません」と声をかけました。極めて丁寧に声をかけたつもりです。ところが・・・
「ちょっと！今友達と話してるのが分かるの！」

これが私に返ってきた言葉でした。彼女は乱暴にメニューをつかむと私たちを席に座らせ、無言で投げつけるようにメニューを置いて去っていきました。

もちろん私は彼女の失礼な態度に怒り心頭です。接客の態度がなっていない、今の若い奴は礼儀というものを知らない。私が若かった頃は・・・などなど、文句と不満を信香にぶちまけました。

冒頭に紹介したのは『仏教聖典』のお釈迦様の言葉です。他人への仕返しや復讐心があるというのを非常に明確に言い当てた言葉ではないでしょうか。このような相手に仕返ししたいと思う心をなだめるものがあるとするれば、それは「許し」であるといえるかもしれません。実際、キリスト教においてこの「許し」は、非常に大切な教えとして説かれています。しかしながら私たちの予想に反して、仏教が「許し」を説くことはほとんどないのです。なぜでしょうか。

仏教とは「許し」を必要としない教えであるといえるかもしれません。真実に目覚めた人にとって、相手を許すか許さないかということはもはや問題にならないからです。
仏教は人の間違った行為や思いやりのない態度を容認するわけではありません。しかし、仏教の教えが最も問題としているのは、他人をどうこうすることではなく、自分自身が他人から受けた行いからいかに解放されていくかということなのです。なぜなら、そこにしか私たちが本当に怒りや苦しみから救われていく道はないからです。その意味で、人を許すにしろ、その人に仕返しをするにしろ、その人から受けた行為に捕われ、煩わされ、思い悩まされているという点においては全く同じであるといえることを仏教の教えは私たちに明らかにしてくださっています。あらゆることに執着するのが私たち人間の姿であります。自分に都合のよいことはもちろん、腹が立つようなことや、自分を傷つける(四面へ)

(一面続き) ことにすら執着します。そして、その執着によって生まれるさらなる怒りや痛みに苦しみ続けるのが私たち人間という存在なのであります。私たちが私たちを苦しめ、苦しみの根源は人です。したがって、苦しみの根源は人を許すか許さないかという判断にあるのではないのです。私たちが解放されるべきは、受けた行為にいつまでも捕われている自分自身からであるということを知らしめていくのが仏教の教えなのです。

私たちは他人や友人から理不尽な行為を受けたとき、大抵の場合怒りの感情が湧き上がってきます。そして、時にはその怒りに振り回されてしまうこともあるのではないのでしょうか。それらもまた、人から受けた理不尽な行為に私たちがいつまでも捕われていることの表れです。

例えば、フリーウェイでいきなり前に横入りしてきた車に対して、あるいは私のようにレストランでいい加減な接客態度のウェイトレスに対して、またあるいは自分を裏切った友人や恋人に対して、私たちは傷つき、怒り、いろいろな不満を感じます。「思い出すたびに腹が立つ」という経験は誰もが あることではないでしょうか。それは、その行為にいつまでも捕われて前に進めないために、繰り返し苦しみを受けている私たちの姿といえるのではないのでしょうか。

傷つき、怒り、裏切られたと絶望する時、私たちは過去の中を生きています。なぜなら、それらはいずれも過去に受けた行為から生じているものだからです。しかも、私たちがどれだけその行為によって苦しみ、悲しみ、憤ったところで、相手はいっこうに意に介しないうちも往々にしてあります。ですから、苦しめば苦しむだけ、他の誰でもない自分自身の人生を空しくさせているということになるのです。

起こってしまったことを変えることはできません。でもそのことへの執着を離れるかどうかは私たちの手に委ねられて

います。執着を離れることが自分自身を苦しみからの解放することであるならば、それは私たちが賜っているいのち、そして自分自身を本当に尊ぶ行為といえるのではないのでしょうか。

もちろん、怒りや傷ついた心から自分を解放することは容易なことではありません。立ち直れないほどの痛みを経験した人にとってはおさらのことでしょう。しかし、私たちが今という瞬間に目を向け、歩み続けるしかない決意した時、自分を苦しめるあらゆる捕われから自由になることができるのです。そして、私たち誰もがそのような歩みをする事ができると信頼されている身なのであります。

さて、ファミリーレストランでの一件の後日談をお話ししましょう。

家に戻ると私はさっそく本社に苦情の手紙を出しました。数週間後、謝罪とその件について真摯に対応するという旨が書かれた手紙が届きました。胸がすっとしました。私が勝ったのです!... それとも、それこそ「風に向かって唾する」姿なのではないでしょうか?

南無阿弥陀仏

▽三月十六日、春の彼岸会に合わせて仏教セミナーが行われた。御講師は、ハワイ開教区コナ本願寺住職のヒガ・ブレイン師と南カリフォルニア大学大学院生の清水谷耀順師を迎えて、「人生×仏教」というテーマについて聴聞した。MAのデイリオ氏が司会を務めた意見交換会では、



「人生すなわち仏教である」というヒガ先生の持論や老年学の視点から人生を問う清水谷先生など活発な議論が行われた。

太極拳 参加者募集中!

西別院仏教婦人会主催の大人とシニアのための太極拳/氣功クラスは、毎週金曜日午前2時から2時30分まで、Zoomを使ってバーチャルに行われています。

このクラスの目的は、心身の健康増進と維持です。バランス、動き、柔軟性、強さ、持久力、正しい呼吸法、心と体への気配り、ポジティブな考え方、痛みの軽減などに焦点を当てたテクニクやエクササイズに焦点を当てています。当クラスは、南カリフォルニアの日系および日本人コミュニティの高齢者と介護者の生活の質を向上させることを目的としたKeiroの助成金の支援事業です。

(詳細は、<https://www.keiro.org/features/los-angeles-honpa-hongwanji-buddhist-temple-tai-chi-qi-song-class>) 参加費はお一人様一クラスのみです。クラスへの参加にご興味のある方は、お名前とメールアドレス、または電話番号をお書き

西別院Instagram



西別院では、昨年からおしゃれなメディア (Instagram/Facebook) を始めました。「もっと西別院のことを知ってもらおう」をコンセプトに、普段の法要や開教使の先生たちの活動写真、イベントの様子、

案内などを掲載しておりますので、是非フォローと(登録)をお願いします。四月八日はお釈迦様のお誕生をお祝いする花祭りです。ロサンゼルス小東京地区の日系仏教寺院連合(通称・仏連)では毎年合同の

花祭り法要を行います。今年も、高野山別院が主催となり、七日に仏連合同のお釈迦様誕生祭が勤修されました。今回の花祭り法要と連動して、小東京の日本文化会館では、「生け花と花祭り」の企画展示が開催されました。そのオープニングでは仏連の講師使たちが集まって宗派を超えて、散華、灌仏を行いお釈迦様のお誕生をお祝いしました。

悟りの象徴である蓮華やお釈迦様誕生の直後の花々によりお祝い、日常生活での仏花お供など、仏教とお花は大変深い縁があります。お花は仏様です。美しく咲き散っていく花々の姿は、諸行無常の仏法の教えを伝えてくれています。



歴史と人物像

「カミ・シズイチ」

キョウゴク開教使の奥様である京極キヨさんは、1920年代初頭に大和ホールに新設された日曜学校の生徒を迎えに行くために寺務所の車を運転していた若者たちのことを、以前のJHOの号で触れた。その中の一人、カミ氏という20代前半の若者について触れているが、私はそれがカミ・シズイチ氏ではないかと考えている。

1912年頃、沖本弁左衛門と甲斐の息子であるカミ・シズイツは、長兄のもとへ行くために5歳前後で広島を離れた。沖本米治のもとへ。両親と姉の一女、弟の葛江を残して。シズイチは加美家の養子となった(娘のカミ・マサコ・ホロウエルによれば、養子とは名ばかり)。20代前半に中村亀代と結婚し、1934年に中村亀代は死去した。中村亀代には、神幸子(井田)、神千恵子(東)、神誠司、神美恵子(倉本)の子供がいた。

シズイチは、西別院が成長し、ジャクソン・ストリートの大和ホールからセントラル・アベニューに移転、1937年6月に別院に昇格するまで見届けた。この時期は別院にとって激動の時代と言えるだろう。北米仏教伝道会(後のBCA)のマスヤマ開教使が臨番代理に任命され、フルタイムのリンバンが任命されるまでの2年間、彼はサンフランシスコから通勤し、1938年にササキ開教使が京都の本山本願寺から初代輪番として派遣されるまで続いた。ササキ開教使は若くエネルギーにあふれ、若者たちと素晴らしい関係を築き、任期中は日曜学校の生徒数が大幅に増加し、BKAグループも増加した。1930年代、西別院は半径100マイル以内のグループに定期的に開教使を派遣した。これは新規のサンガを立ち上げるのに貢献した。

結果、西別院は約1,500人の会員を擁し、1934年の寺の運営予算は約14,000ドルにのぼった。

シズイチは不況の厳しい時代も経験している。1938年、京都の本部は福井荘二の指導力を評価し、本山勘定の称号を与えたが、それは別院が数多くの困難に直面していたことを意味する。翌日の生活費をかき集めるために毎日会議が開かれていた時代である。

シズイチはやがてイーグルロックでマーケットを経営し、グレンデールに家を購入した。彼は作家であり、数年間「北米毎日」に作品を寄稿し、奥様と一緒に俳句を書いて出版した。

1940年、シズイチはマエダ・イセリ夫人と結婚し、ジョージ・イセリ、ジーン・イセリ(松野)、グレース・イセリ、フランク・イセリの4人の子供を連れてやってきた。夫人は中央通りの寺院で婦人会の手伝いをしていて、よく見かけ、後に25番地の寺院の法要にも訪れていた。カミ・シズイチ氏は1983年に85歳で亡くなった。夫人は2007年に95歳で亡くなっている。【シリーズ…この話ご存じですか 編集 増山栄子】



写真上：カミ・シズイチ、マンザナーにて撮影、1943年頃。母の膝の上に正子(人形を抱いている)父の前に清子、中央にフランク信夫、後ろに立っているのが千恵子と美恵子。



写真上：2024年3月2日 サーフターフの会館。後方：ジョージ松林開教使、ケイ・マツバヤシ夫人、増山栄子。手前：ケイ・カミ、マサコ・カミ・ホロウエル

ワンコイン、ワンライフ



駐在開教使

村上 響

春のお彼岸に、ハワイコナ本願寺からブレイン・ヒガ先生をお招きしました。ヒガ先生のお話は大変示唆に富み、特に感銘を受けたのは、仏法のはたらきには際限がないということです。

このお彼岸セミナーは、三月二十三日に行われました。午後の部では、ヒガ先生ともう一人のゲスト、天台宗から清水谷先生をお呼びして、二人を交えて意見交換会を行いました。ディスカッションのテーマは「問いを生きる―人生の意味を発見する」というもので、各師意見を述べられました。ヒガ先生のご意見はこうでした。人生における問いには答えではなく、問いに生きる姿勢そのものが人生である、と。何が起るかわからない人生を生き続けなければならぬ私たちにとって、最善の答えは問いを持ち続けるということです。お釈迦様も親鸞聖人もそうであります。両師ともに問いと共に人生を歩み、渡世の法に出会っていかれました。人生を師と仰ぎ、そこから学び成長し続けることが、生きた智慧へと変わるのです。

私たちは心身ともに絶えず変化しています。万物は流転するのに、どうして「変わらない私」がいると言えるのでしょうか。「南無阿弥陀仏」とお念仏をして阿弥陀様に全てをお任せすることは、変化に身を委ねる心境だと思えます。ヒガ先生は、酸いも甘いも含めた人生を受容することを訴えました。変化を不快と取るのではなく、驚きをもって、人生に臨む勇氣を持つことを勧めました。臨む過程で出てくる疑問は、全て救いと目覚めに向

かっていくための道しるべです。「どうすれば自分や他人を愛せるだろう。」「どうすれば、人生をより充実できるか。」「他力に生きるといふことは、問いの連続である人生を認めることではないでしょうか。」

難しい局面に出会ったとき、ピンチはチャンスだと言います。困難は既成の価値観をひっくり返してくれる絶好の機会ですから、物事には必ず裏と表の二面性があります。こんなお話があります。ある晩、ある村に富の女神が訪ねてきました。ある村人の家で「私が行くところには必ず富と幸運がやってきました」と言うと、女神は一晩村人の家に泊めさせてくれとお願いをしました。村人は喜んでその女神を自宅に迎え入れました。今度は別の女神が同じ村人を訪ねます。先ほどの女神とは打って変わって、今度は貧乏の女神だそうです。彼女もまた、一晩を過ごす家を探していました。村人は貧乏になるのが嫌だったので、彼女の頼みを断りました。その場を立ち去ろうとする貧乏の女神は、富の女神も連れて出ていこうとします。「あなたはなんと愚かなのでしょう。私と富の女神は姉妹です。彼女がどこへ行こうとも、私たちはいつも一緒です。私は不幸をもたらしますが、彼女は幸運を与えます。あなたが私に敬意を払えば、お返しに彼女はあなたを無下にはしないでしょうに。」そう言い残すと、女神たちは姿を消しました。

人生には様々なドラマがあります。ヒガ先生は、失敗も人生の一部と教えてくれました。酸いも甘いも一つ一つの出会いに感謝をし、問い学ぶ姿勢が私たちの心を豊かにしてくれます。失敗を恐れる時は、阿弥陀様のことを思い出してください。私の息のかかった出会いは無意味に終わることありません。私は新しいことに向かう時、よく『正信偈』の一節を思い出します。「わたしもまた阿弥陀仏の光明の中に摂め取られているけれども、煩惱がわたしの眼をさえぎって、見えてまつることができない。しかしながら、阿弥陀仏の大きな慈悲の光明は、そのようなわたしを見捨てることなく常に照らしていただくさる」(『教行信証』現代語訳)

称名

求む!!!



今年のお盆カーニバルのお手伝いを募集します。作業内容は、設営、接客(ブラス)、カーニバル後の撤収作業、お盆踊りで輪の中心で踊れるダンサー、等々。今年のお盆は7月13日と14日です。もし皆さんの周りで、「わたし、西別院のお盆を手伝えます!」という心意気のある方がいたら、ぜひご連絡ください。お問い合わせ先は、helpshibon@gmail.comまでご連絡ください。「お手伝いできるかもしれない」など興味のある方や「これをやってみよう」とアイデアのある方も大歓迎です。とにかく、動ける方を募集しております。メールを送って頂ければ、新規情報があり次第追ってご連絡させていただきます。お気軽にお問い合わせください。詳細につきましては、次号の時報でお知らせする予定です。